

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

No.70  
8月号

2011年8月12日発行



は  
じ  
け  
る  
笑  
顔  
  
夏  
本  
番  
！



息の合ったかけ足で入場する瑞穂支団第2分団



行進間の訓練を行う丹波支団第2分団



行進間においてかけ足の訓練を行う丹波支団第3分団



礼式訓練において脱帽による敬礼を行う丹波支団第4分団



礼式訓練を行う瑞穂支団第3分団



停止間の各個訓練を行う和知支団第1分団



停止間の小隊訓練を行う和知支団第3分団

# 地域住民の安心と、消防団員の安全確保を目指した 京丹波町消防団夏季訓練



今月の表紙

楽しそうにプールで遊ぶみずほ保育所の園児たち。無邪気な笑顔を見せ、水しぶきをあげながら元気にはしゃぎ回る姿は、夏の思い出の1ページを鮮やかに彩ります。(写真は7月13日のプール開きの様子)

## No.70 CONTENTS

2 地域住民の安心と、消防団員の安全確保を目指した  
京丹波町消防団夏季訓練

4 シリーズ 京丹波の心を伝える  
「国民文化祭」と「食の祭典」の  
魅力を探る

6 須知高校生がまちづくりについて提言  
「未来づくりディスカッション」

8 Dr's Message いきいき健康術

9 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2011

行政相談委員の塩田喜一さんが受賞  
—総務大臣表彰

ひざを交えて京丹波町のまちづくりを話し合う  
—町長と語るつどい

広野区と大籠区の連携を深める取り組み  
—彼岸花を植えよう

新たな気持ちで勇壮な太鼓を響かせる  
—ばち供養2011

犯罪や非行のない明るい地域社会を目指して  
—社会を明るくする運動

京丹波町病院の環境をよくするために  
—松山寿会がボランティアで美化作業

地域の魅力を発信  
—京都丹波交流フェスタ

笑いを大切に楽しく健康な毎日を  
—きらりセミナー☆I

ハートマークに込められた被災地復興への思い  
—ハートマークビューイング

日本の伝統文化と礼儀作法を学ぶ  
—和知小学校茶道体験

災害時や火災現場の活動においてもっとも重要となるのが、厳格な規律に基づいた動作や行動。町消防団では七月三日、幹部団員の指揮系統、それに従って行動する団員の動作を再確認するために、礼式や小隊などの基礎的な訓練を、丹波支団が蒲生野中学校グラウンド、瑞穂支団が三ノ宮農村公園グラウンド、和知支団が和知小学校グラウンドに分かれて実施しました。

今回の訓練では、停止間と行進間の「各個訓練」をはじめ、敬礼など規律の基礎となる「礼式訓練」、分団長の号令に従って統制のとれた動きをする「停止間の小隊訓練」を実施。夏季訓練本番に向け、丹波支団と瑞穂支団は分団ごと、和知支団は支団全体で複数回練習を重ね、細部にわたり基礎的動作を再確認しました。

訓練当日には、梅原団長らが各支団の訓練内容を確認するために三会場を巡回したことから、副団長が各会場の責任者として現場を指揮。丹波支団では、栗林英治副団長が「練習成果を発揮し、すばらしい訓練となるよう期待します」と訓示を述べた後、長澤誠支団長の指揮により、第四分団による停止間の各個訓練をはじめとして計九分団(重複含む)の訓練が実施され、分団長らの掛け声が響き渡る中、団員たちは機敏で正確な動きと息の合った動作を披露し、地域の安全と安心を守るための心構えを新たにしていました。

### 講評



梅原好範 団長

今回の訓練は、基礎的な活動動作を再確認、反復することにより、総合力を向上させることを目的に実施

しました。幹部はもとより、すべての団員が目的意識を共有し、日ごろの練習成果が十分に発揮されたものであったと満足しています。

災害対応時や火災現場において、住民の生命と財産を守るのが消防団員としての役割ですが、それと同等にわたしが最優先するのは厳格な規律のもとで守られるみなさんの安全です。

訓練内容を生かし、住民の安心、そして消防団員としての安全な活動に直結するよう努めてください。



訓練開始の報告をする丹波支団の森田分団長

今秋に京都府で開催される国内最大の文化イベント「国民文化祭」。  
本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」伝えよう人形浄瑠璃のこころ」と、関連事業として「京丹波・食の祭典2011」を開催します。  
このシリーズでは、開催に向けて準備を進めている「国民文化祭」と「食の祭典」の魅力を探ります。

# 京丹波の心を伝える 「国民文化祭」と 「食の祭典」の魅力を探る

## 第二回 地域が誇る伝統芸能「和知人形浄瑠璃」

国民文化祭で本町のメインテーマとなる「和知人形浄瑠璃」は、大迫区を発祥の地として江戸時代末期から脈々と継承されており、昭和六十年には京都府無形民俗文化財の指定を受け、地域を代表する伝統芸能として町内外を問わず多くの会場で公演されています。

大型の人形を一人で操る「一人遣い」が特徴で、重さ約四十キにもなる人形を巧みに操る技術は、心技体が一体となった熟練の技の賜物。生きていくかのような動きや表情を見せる人形に合わせ、多彩な音色を奏でる「三味線」と、喜怒哀楽の感情を語り分ける「語り」の三者が一体となって、物語の奥深い世界を醸し出します。

振り込め詐欺「還付金詐欺師の段」のような近年の世相を反映した内容のものも新たに創作されています。

### 和知人形浄瑠璃会の活動

公演や人形の保存、後継者育成などに取り組んでいる「和知人形浄瑠璃会」(大田喜好会長)は、「語り」四人、「三味線」三人、「人形遣い」七人の計十四人の会員で活動しています。同会は、道の駅「和」道路情報センターでの定期公演をはじめ、町内外の催しなどへ積極的に出演して幅広く和知人形浄瑠璃の魅力を発信するとともに、国民文化祭を京丹波町全体で盛り上げていこうとの思いのもと、本年六月から瑞穂地区と丹波地区の公民館などを巡回し、身近に触れ合える形の公演に取り組まれています。

また、地域の伝統芸能を継承するために、地元の和知小学校と和知中学校で定期的に実技指導を行い、子どもたちから親しめる環境づくりに努めています。



語り和三味線の様子

### 地域に根差した取り組み

和知中学校では、「総合的な学習の時間」を利用し、二週間に二回程度の練習を実施。今年是一年から三年までの二十九人が参加し、国民文化祭に向けての練習を積み重ねられています。

七月十七日には、南あわじ市三原公民館で開催された「淡路人形浄瑠璃後継者団体発表会・交流会」に同会員らと共に参加し、昨年のプレ事業に出演した南あわじ市立三原中学校の生徒らとの意見交換や国民文化祭の演目発表などにより、交流を通して多くのことを学びました。

一方、和知小学校では、「人形浄瑠璃クラブ」を設置し、月に二―三回程度の練習を実施。四・五年生は語り、六年生になると人形遣いと役割分担されていることから、部員十二人が学年を超えた連携を育みながら人形浄瑠璃の素晴らしさを学んでいます。



発表会で和知人形浄瑠璃を披露する和知中生(三原公民館・南あわじ市)



ほかの地域で使われている人形を見学する和知中生



和知人形浄瑠璃会員から人形の操り方を教わる児童(和知小学校・本庄)

**インタビュー**

**和知小学校人形浄瑠璃クラブ**  
人形遣い担当 堀真(まこと)さん(六年)

昔の言葉や地域の歴史などが学べることに魅力を感じています。人形をうまく操れるようになることが楽しみです。ただ、人形が重たいのと、手の動きや動作をするタイミングが難しく覚えていくのが大変です。多くの人に人形浄瑠璃を知ってもらえるよう、練習の成果を発揮して間違えずにいねいにかんばりますので、みなさんぜひ見に来てください。

**和知小学校人形浄瑠璃クラブ**  
語り担当 片山悠(ゆう)さん(五年)

三味線に合わせてみんなと声が揃ったときや、大きな声で台詞が言えたときはとても楽しく思いますが、長時間正座をしていると足がしびれてしまうのは困ってしまいます。みなさんから「すごい」と言ってもらえるよう、間違えないようにしっかりと練習をし、緊張せず大きな声でハキハキと語れるようにかんばります。



## 成功させよう!「第26回国民文化祭・京都2011」

【期間】10月29日(土)～11月6日(日)

◆京丹波町主催事業◆

「魅せる・人形芝居フェスティバル～伝えよう人形浄瑠璃のこころ～」 「京丹波・食の祭典2011」

【開催日】11月6日(日) / 【開催場所】和知ふれあいセンターおよび駐車場特設会場

【問】国民文化祭に関しては 教育委員会 社会教育課 ☎84-0028  
食の祭典に関しては 産業振興課 ☎82-3808



人形遣いの様子

須知高校生がまちづくりについて提言

# 「未来づくりディスカッション」



パネラーとして意見を述べる篠塚さん



まちづくりへの思いを語る畠中副町長  
(町中央公民館・蒲生)



松村水咲さん(3年)

この町がすごく良い町だと感じているし、子どもを育てるのだとしたら京丹波町のような自然が豊かなところがいいので、働くところを増やしたり、近くで買い物ができるところを増やしたりして、住みやすい環境をつくるのが大切だと思う。



今出麻衣さん(1年)

特産物などが多いのはこの町の良いところですが、町全体のイベントや行事などを増やしてほしい。それを高校生が率先してやっていければ、もっと良い町になると思う。



星山真輝さん(2年)

住民の人などにアンケートをし、多くの意見をまちづくりに取り入れたらよいと思う。



一谷怜奈さん(2年)

京都とかに行くと、京丹波町のことを知らない人がたくさんいるので、少しでも多くの人に知ってもらえるようPRしていけたらと思う。



西村澄乃さん(3年)

冬ほたるで特産品を提供するなど、イベントなどで大々的に京丹波ブランドをPRしていけばよいと思う。



小林加奈さん(2年)

京丹波ブランドを売り出す場をもっと多く作ればよいと思う。

## 高校生からまちづくりへの

## 提言

### 高校生から見た京丹波町の印象

最初に生徒たちは、住んでいて感じる京丹波町の印象をテーマに議論。自然の素晴らしさや豊富な特産物、人間関係のつながりの強さなど、町の長所を語る一方で、「少子高齢化の町になりつつある」「仕事が少ない若者が出て行ってしまいう傾向にある」など、厳しい現状と課題を出し合いました。

### 理想とする町の将来像とそれに向けてできること

続くテーマは、理想とする町の将来像。生徒たちは、「観光などで多くの人に来てもらえるような町」「緑と人がうまく共存し、若者が住み続けたいと思う町」「スーパードコンビニなどの近代的なもの、商店街などの古風なものが共存する町」いろいろな世代の人が一緒に暮らせて、活気のある町など、それぞれが思い描く町の姿を出し合った後、それに向けて自分たちが何をすればよいかを参加者全員で議論。同会議所の篠塚泰寛さんは、「二人ひとりがこの町を好きになり、そして誇りを持つ。そこから始めることが大切だと思う」と話し、高校生たちもそれぞれの考えを発言しました。

次に、自分たちができるまちづくりについての提案が行われ、「ボランティアを通じて若者と高齢者が交流できるように、わたしたちの世代が積極的に活動して町を元気づけたい」などの前向きな意見が出されました。

その後、高校生一人ひとりが参加した感想を発表。西村さんは「畠中副町長から普段聞けないような話が聞けて良かったし、提案に対して前向きな意見もいただけたので実際にイベントなどが行えたらいいなと思いました。三年生としてこれから将来のことを考える上で、非常に勉強になりました」と話しました。

提言や意見を受けて、畠中副町長は「高校生のみなさんのまちづくりへの思いや意見、提言を聞かせていただくことができてうれしく思います。多くのみなさんと語り合いながらまちづくりを進めていますので、みなさんも須知高校で学んでいることに誇りを持ち、これからは大いに京丹波町のことを語り合ってください」と、まちづくりにかける熱い思いを語りました。



# 『足指を動かそう』

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院の理学療法士 伊藤正幸さん。足指の動きや働き、そして日常生活の中で簡単にできる運動についてのお話です。

**日** 本には、古来より足半という足指と踵が出る草履が存在し、中世の武士は戦場で足半に履き替え、刀や槍を効率よく使い戦っていたといわれています。これは、足半がはだしに近い状態で、足指で地面をしっかりとつかんで身体を安定させることができるため、近年では高齢者の転倒予防の観点からこのような足指の働きに関心が高まっています。

## 足指の動きが悪くと

足の裏はセンサーとしての働きがあり、立っているとき足指はしっかりと床を捉えるように動きます。ということは、足指の動きが悪いと、立ったり歩いたりするのが不安定となる原因の一つになってしまいます。

## 足指の動きを見てみましょう

指の動きは、握る、伸ばす、開く、閉じるが基本となります。足腰が悪い人や脳卒中などで体を動かさにくい人の足指は、関節自体も硬く伸びにくくなっていることが多くみられます。

## 自分でできる足指の運動

じゃんけんのグーと、パーを足指でやってみてください。最初は手を使って足指の付け根の部分からしっかりと曲げたり、指と指の間を開くことから始めてください。



理学療法士 伊藤 正幸さん (京丹波町病院)

ただし、変形や痛みが強い人は無理をしないでください。

理学療法士として、四月から京丹波町病院で従事していますので、気になることがあればお気軽にご相談ください。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。  
☎86-0220

## 行政相談委員の塩田喜一さんが受賞

### ■総務大臣表彰

行政相談委員の塩田喜一さん(三ノ宮)が七月六日、行政相談委員制度五十周年記念中央式典において総務大臣表彰を受賞されました。

塩田さんは、平成十一年四月一日に委嘱されて以来、約三百五十件の相談に対応するとともに、瑞穂保健福祉センターで定例相談所を開設するなど、地域住民と行政とを結ぶ架け橋として多年にわたり尽力され、平成十四年五月に京都行政評価事務所長感謝状、平成二十年五月に近畿管区行政



総務大臣表彰を受賞した塩田さん

評価局長表彰を受賞。今回はこれまでの活動や実績が認められての受賞です。  
おめでとうございます。

## ひびきを交えて京丹波町のまちづくりを話し合う

### ■町長と語るつどい

六月三十日の竹野基幹集落センターを皮切りに、「町長と語るつどい」を町内二十二会場で開催しています。

同つどいは、京丹波町のまちづくりの方向性やあり方など、寺尾豊爾町長と地域住民がひびきを交えて話し合う場として昨年度より実施。今年度は、説明を短くし意見交換の時間を多くとることで、行政と地域住民がより身近に懇談できるよう努めており、九月九日までを開催期間として現在



まちづくりをテーマに地域住民と意見を交わす寺尾町長(上野住民センター・上野)

も各集落の公民館などで開催しています。  
開催日時や場所については「広報京丹波お知らせ版」および「ケーブルテレビ告知放送」などでお知らせしますので、六月に全戸配布した冊子を持参のうえご参加ください。

## 広野区と大簾区の連携を深める取り組み

### ■彼岸花を植えよう

「彼岸花を植えよう」(広野・大簾活性化委員会主催)が七月十六日、広野地区内の田んぼの畦で行われ、地域住民ら約四十人が参加しました。

この取り組みは、京都府の共催「命の里」事業を利用して地域の課題解決に取り組む同委員会が、広野区と大簾区の連携強化

および地域づくりの一環として行うもの。参加者たちは、照り付ける太陽の下、ツルハシなどを使って田んぼの畦などを掘り起こし、約千球の球根を手際よく植え付けていきました。

作業が終了すると、参加者は広野公民館に移動し、植え付けた場所に設置する看板制作に取り組みんだり、かき氷や黒豆おにぎりを食べながら懇談したりして親ほく

を深めています。

同会の西村甚太郎委員長は「自分たちの地域は自分たちでよくしていこうとの思いで活動していきます。今回は、地域住民がよく利用する府道やJRの車窓から見える位置に植え付けましたので、秋にはきれいな彼岸花が咲くところを多くの人に見ていただきたい」と話します。



彼岸花の球根を植える参加者(広野地区内の田んぼの畦)

## 新たな気持ちで勇壮な太鼓を響かせる

### ■ばち供養2011

和知太鼓保存会が七月十七日、道の駅「和」に設けられた特設会場で、「ばち供養2011」を行いました。

ばち供養は、これまで使っていた傷ついたばちを奉納し、新たな気持ちで美しく勇壮な太鼓の音色を響かせるために行われるもの。今回が十五周年記念となることから、全国で公演や指導などの活動を展開している三宅島芸能同志会を招き「芸能太鼓東西響演」と銘打って盛大に開催されました。

この日は、関係者らによるばち焼納が行われた後、太鼓ライブが催され、和知小学校、和知中学校、和知太鼓保存会、三宅島芸能同志



ばちを焼納する三嶋副会長(道の駅「和」・坂原)

会が次々と出演し、勇壮な太鼓を響かせ会場を沸かせました。また、ライブの最後には、和知太鼓保存会と三宅島芸能同志会が共演し、それぞれの特徴ある太鼓の音色を打ち鳴らして観客を魅了しました。



和知太鼓を打ち鳴らす和知太鼓保存会と三宅島芸能同志会のメンバー



三宅太鼓を打ち鳴らす和知太鼓保存会と三宅島芸能同志会のメンバー

## 犯罪や非行のない明るい地域社会を目指して

### ■社会を明るくする運動

法務省が主催する「第六十一回社会を明るくする運動」が七月を強調月間として全国的に展開され、本町では七月二日に街頭啓発などを行いました。

同運動は、犯罪や非行の防止お

よび罪を犯した人たちの更生について理解を深めるとともに、それぞれの立場で力を合わせ、明るい社会を築いていくとする取り組みで、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」をスローガンに活動を展開。法務大臣からのメッセージを受けた寺尾豊

爾町長は、活動の趣旨を踏まえ、町保護司会や更生保護女性会、区長会、女性の会などに呼びかけて推進委員会を組織し、道の駅やJR和知駅前などでの街頭啓発、事業所訪問を通じて、犯罪や非行のない明るい地域社会の構築を呼びかけました。



街頭啓発で訪れた人たちに呼びかける委員(丹波マークス前・須知)

## 京丹波町病院の環境をよくするために

### ■松山寿会がボランティアで美化作業

六月三十日、松山地区の老人クラブ「松山寿会」がボランティアで京丹波町病院周辺の美化作業を行いました。



花壇内の除草作業を行う会員(京丹波町病院・和田)

同会は、地元の医療機関である京丹波病院の環境をよくするために、雑草が伸びるこの時期に毎年、歩道や花壇の草引

き、芝生内の草刈りなどの除草作業を実施。今回は百人余りの会員が参加し、汗ばむような陽気の中、約二時間にわたる美化作業に努められ、利用する人たちは見違えるほどきれいになった周辺環境を見て喜んでいました。同会会長の吉田忠治さん(井尻)は、「お世話になつていいる京丹波町病院を大事にしているという思いから活動を続けています。元気で健康な毎日を過ごせることに感謝し、力を合わせて一生懸命がんばります」と活動への思いを話しました。

## 地域の魅力を発信

### ■京都丹波交流フェスタ

七月二日、「京都丹波交流フェスタ」がガレリアかめおかで開催されました。

この催しは、「京都丹波」が持つ自然、文化、食、農業などの魅力をもとに考え、多くの人たちが交流を深めることを目的とするもの。第一部のパネルディスカッションではパネラーと来場者が京都丹波に込める思いや良さなどを熱く語り合い、続く第二部では「食」の面から京都丹波の素晴らしさを再認識するために、地元食材を使った一日限りの「京都丹波レストラン」を開店。本町からは、瑞穂



瑞穂そばの試食をする来場者(ガレリアかめおか・亀岡町)

そば、和知川の天然アユ、黒大豆などの地域食材を使った料理がふるまわれ、豊かな自然の中で育まれた地元産品の良さを来場者にPRしました。

### 職員の配置 (敬称略)

#### ■新規採用(八月二日付)

吉田恵理子(京丹波町病院看護師)

## 笑いを大切にして楽しく健康な毎日を

### ■きらりセミナー☆1

男女共同参画について理解を深めるための「きらりセミナー☆1」(町・京丹波きらりネットワークの会主催)が七月十四日、山村開発センターみずほで行われ、四十八人が参加しました。

今回の講座では、京都工場保健会の梶岡恵子さんを講師に招き、

「なるほど！知れば守れる。ココロとカラダ」をテーマに開催。梶岡さんは、楽しみながら人間関係をつくるコツや、体に負担をかけずにできる筋肉トレーニングの方法などを説明した後、「笑う門には福来る」の言葉どおり、笑うことで楽しく健康な毎日が過ごせます。ガハハ笑い、作り笑いなど、どんな笑いでいいので日ごろからできる

だけ笑うように心がけてください」と、参加者にアドバイスを送りました。



簡単な運動を交えて講演する梶岡さん(山村開発センターみずほ・大朴)

### わたしたちの町

人口	16,484(-8)
男	7,786(-9)
女	8,698(+1)
世帯数	6,446(+1)
8月1日現在/( )は前月比	

### 義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,429,271円
復興支援募金	3,769,231円

\*平成23年7月31日現在

## ハートマークに込められた被災地復興への思い

## ■ハートマークビューイング

丹波ひかり小学校の五年生が七月十五日、東日本大震災の復興支援として取り組まれている「ハートマークビューイング」の活動を行いました。

ハートマークビューイングは、ハートマークの入ったタペストリーを作って避難所などに届けることで、被災地を思う気持ちを伝え、それを励みに被災地復興への活力につなげてもらおうと、ハートマークビューイング実行委員会（東京都）が全国に活動と呼びかけているもの。この活動に賛同し

た同校は、家庭科の時間を利用して裁縫の練習などを行い、事前準備を進めてきました。

この日、児童たちは学校運営協議会学習支援員や保護者らに手伝ってもらいながら、持ち寄った布をハート形に切り抜いた後、十五センチ四方の布に縫い付けていき、その後、物づくりボランティア・ひらめきグループが出来上がった布を縦横五枚ずつミシンでつなぎ合わせ仕上げていきました。

完成したタペストリーは、同実行委員会を通じて被災地に送られます。



裁縫作業に励む児童たち(丹波ひかり小学校・曽根)



出来上がったタペストリーを見つめる児童たち

## 日本の伝統文化と礼儀作法を学ぶ

## ■和知小学校茶道体験

七月十三日と十四日の二日間、和知小学校で茶道体験の授業が行われました。

授業は、茶道を通じて礼儀作法を学ぶとともに、日本の伝統文化について理解を深めることを目的に、六年生を対象に社会科の時間を利用して実施。授業では、茶道家で裏千家師範の高光朝子さん(出野)らが講師を努め、茶道で使

う茶せん、水差し、茶巾、ふくさなどの使い方をはじめ、お茶の立て方や飲み方、真・行・草のお辞儀の仕方など、実演を交えてわかりやすく児童たちに説明しました。

続いて、児童たちは、高光さんらに教わりながら、お茶を立てたり、慣れない正座に戸惑いながらもお茶をたしなんだりして、古来より伝わる日本の伝統文化の奥深さを体験しました。



高光さんからお茶の飲み方を教わる児童(和知小学校・本庄)

## 編集後記

夏の楽しみとして真っ先に思い浮かぶのが「水遊び」。みずほ保育所の園児たちが水しぶきをあげながら気持ちよさそうに遊ぶ姿を見ていると、うだるような暑さの中でプールに入るのを心待ちにしていた子ども時代を思い出すとともに、息子の成長した姿を思い浮かべてしまい感慨深く感じました。歳を重ねるごとに月日の経つのが早く感じますが、息子と過ごす時間を大切にしながら、一つ一つの出来事を楽しんでいきたいと思います。(K)